



CCS便り

NPO 法人 キャリア・カウンセラー札幌
令和2年 2月 7日発行

会報 Vol .23

〒060-0052 札幌市中央区南2条東6丁目 2-1
B-205

TEL. 011-596-6242

FAX. 011-596-6267

E-mail ccs2012@vega.ocn.ne.jp

URL <http://www.ccsap.jp>

キャリア・カウンセラー札幌 新春対談 第二弾

この対談は1月24日に平澤理事長と浜松副理事長が札幌市内で行ったものです。

○昨年の活動の経過と振り返りについて

理事長

昨年の課題はキャリア教育・開発についての新規の活動展開でした。

できたこと・できなかったことについて話してみたいと思います。

まず、キャリア教育については、公立高校からの依頼によりカウンセリング研修会の依頼を受けて、昨年7月に実施したことがトピックスでした。

内容としては、講義1時間、デモ30分、総体で2時間弱であり、準備を充分やって臨んだ訳です。

こういうロープレはぶっつけ本番でやることが多いと思うのですが、シナリオを設定して役割を演ずることに徹して行ったので、かなり分かりやすいものに仕上がったのではないかと考えます。

副理事長

教職員向けのキャリアカウンセリングの研修の依頼が思いがけずに実現しました。

キャリア教育に直結するもので効果もあったのではないのでしょうか。

講義自体は形があるものでそれほど苦勞なかつたのですが、ロープレのやり方については、ひと工夫しました。

従来のもものでは、リアルタイムの実技が多いのですが、ロープレを通じて研修、勉強してもらおうという目的に合うように仕上げ、二人で協議しながら作り上げました。

ロープレのヒントは理事長持参の事例の逐語記録を見たときに得た訳です。

我々が評価される場面でやるのではなく、勉強してもらうためにやるので、こういうやり取りがなぜされるのか、こういう発言がどういう意味でされるか、受け手はどう受け取るのかが、できるだけ分かってもらうように仕上げました。

逐語記録の整理により手法（受容、共感など）を意識的に理解可能なようにしました。

教師の方々の評価は不明ですが、食い入るように見ていただきました。

時間の関係で「追っかけ説明」ができなかったのは残念です。できる限り説明があったほうが受け手にはポイントがとらえやすく理解可能だったのではないのでしょうか。

いわば、取説があったほうが、ストーリー仕立てがあったほうが理解しやすいのではと考えています。

本番に加えて、説明があったほうが理解が容易だと思います。

手法は次回以降、使ったものを提示できれば、今後の手法の発展や我々の勉強に使っていただける気がしています。

理事長

来年度に「追っかけ説明」を加えたものを実施継続すべきですね。

副理事長

いくつかのパターンを用意して展開していきたいですね。

理事長

この方法の具体的な展開の一つの試みの場所としてのプランがあります。

一般の教育機関への導入では制限が多いのではと考えます。

こうしたキャリアカウンセリングの技法の勉強の機会が得にくい機関はどこかと考えると専門学校があるのではないのでしょうか。

現状、専門学校の進路指導に人材がそろっているかということ、そうではないのではないかとと思います。

したがって、こうした研修を希望する学校は多いのではないかと考えます。

副理事長

こうした試みはぜひ推進してみたいですね。

その他の取り組みについてはどうでしょうか。

理事長

その他では助成金の獲得と講演会の再開という大きな出来事があったですね。

副理事長

申請は難しかったですが、助成金の仕組みは理解できました。

今回の助成金獲得は活動資金の半分の補助なので、大きな補助とは言い切れません。

我々の活動費は会費と有志の寄付が主であることには変わりはない訳です。

助成金の補助が活動費増につながっていることはあるのですが、基礎は会費増がなければ運営は困難ですね。やはり、会員増は不可欠な課題だと思います。

理事長

何か、良いアイデアや具体的な策がありそうですか。

副理事長

研修会、講演会などのイベント時の会員募集告知あるいはマンツーマンの普及活動が必要なのではと思います。

また、告知のためには会の活動内容の経歴書を作ることが必要だと思うのですが。

理事長

趣味の会などでもよく見かけるので進めるべきだと思いますね。

講演会、研修会の回数増を中心とした活動の増加が広報活動になっていくと思います。

来年度は、現状の活動ではできていない会員のみを対象とした「勉強会」の展開を試みたいと思います。

副理事長

同感ですね、会員を意識した対策が必要であろうと思います。

会員による企画提案を実行案化して参画意識を高めることが必要だとも考えます。



浜松副理事長 活動を振り返る

○来年度の展望について

理事長

来年度実施案として、アイデアレベルだがひとつあります。

それは、就職支援相談会から「キャリア開発」の相談会に内容を変化させることです。

現状の、就職状況からして相談の必要性が減ってきていると考えられます。

キャリア開発は大きなテーマなので、この相談会の改良を手始めとして次のテーマを研究しながら具体的な活動内容を今後決めていきたいと思います。

まったくの余談ですが、今回の講演会の演題である「キャリア開発に必要な5つの理解」のなかで触れようとしているものに企業理解に加えて「起業理解」があります。

この「起業理解」は今後のトレンドとしてみていきたいところです。

副理事長

キャリア開発は大きなテーマではあるが、現実に労働者が喫緊の課題として迫られています。

すぐに取り組んでいくべきだと思います。起業は直近では高校生でも始めている時代です。

我々のような形態もあるし時代が求めているテーマなので推進すべきだと考えます。

また、現在の職業の専門化に対応するべき変化の状況を学びながら、キャリアカウンセラーに情報提供する内容を研修会や勉強会に取り入れていきたいと考えています。

理事長

ここからは、「新たなアイデア」で話を進めてみたいのですが・・・。

では、アイデアレベルのことをいくつか話します。

副理事長

お願いします。

理事長

二つ考えていることがあります。

一つは「スーパバイズ」です。

能力の絶え間ないブラッシュアップの必要なことは分かっていると思いますが、その最も必要であろう「スーパバイズ」の仕組みが我々の世界でまだ確立していないと思います。カウンセラーの養成をした機関が責任をもってスーパバイズをしていないし、再教育をすることができていないし、そういう機関のどんなホームページを見てもシステム化されていないと思います。

世の中にないのであれば、蛮勇をもって来年度以降に作り出す必要があると考えます。

我々の能力には限界はあるのですが、ある程度のレベルに達すれば形にして世の中にお示しして参加者を募っていきたいと考えます。

もう一つは、話としては逆行するものになるかもしれないのですが（我々が離れようとしている就職支援の話をもう一度しますが）、大きなテーマとして面接があると思います。現在の面接で主流になっているコンピテンシー面接に対して、それを踏まえた面接の指導が公的支援や学校に普及しているかという疑問です。

これらの公的支援や学校で行っている面接指導は型にはまった、今まで行われているものの繰り返しが主流だと思います。例えば、礼法であるとか、簡単な質疑応答、類型的な質問への回答が主で踏み込んだ質疑応答が指導されていないのです。

そして、コンピテンシー面接に耐えられる学生が育っていないとも思います。

優秀な学生でも、このことをクリアして希望の会社に入社できなくなり、社会の入り口でつまずくとすればもったいない話です。

繰り返しになりますが学校等で、そこまでの丁々発止の面接トレーニングが行われているかは大いに疑問です。これも、しっかり準備をしていずれ形にしていきたいと考えます。

副理事長

はい、非常に盛り沢山の内容で我々の身に余るのではと思われませんが、やるべきことが沢山あると感じています。我々の力量で実現可能かは分からないのですが、チャレンジするべきことが多いのは良いことです。

今年も盛り沢山の課題のあるキャリア・カウンセラー札幌ですが、着実に前進だけはしていきたいものです。

では、この辺で理事長、副理事長の新春対談を終わります。



平澤理事長 さまざまなアイデアを語る